2023年度学習院大学史学会総会

第39回学習院大学史学会大会

2023年6月10日(土)　総会　9：30～10：50

会場：学習院大学中央教育研究棟　大会　11：00～17：45

＊対面とオンラインの併用開催となります。
＊オンラインは本会ＨＰからお申し込みください。右のＱＲコードからもアクセスできます。

▶研究報告

第1部　11:00～12:00

１６、１７世紀のスペインと献策書

三潴　みづほ（学習院大学文学部史学科助教）

中世後期における公家社会の身分変化ー「侍従」の任命を中心にー

林　哲民（学習院大学大学院　博士後期課程）

第2部　13:00～14:00

武者小路実陰への従一位・准大臣宣下をめぐって

林　大樹（日本学術振興会特別研究員ＰＤ）

永禄前期における利根川下流域を中心とした政治情勢について
－近年発見された上杉憲勝書状を手がかりに－

吉田　勝弥（学習院大学大学院　博士前期課程）

第3部　14:10～15:10

編制権成立史再考

青木　健史（早稲田中学・高等学校　社会科教諭）

▶講演　15：30～17：45

奈良時代東国の郡的世界をさぐる ―上神主・茂原官衙遺跡の文字瓦から―

鐘江 宏之（学習院大学文学部史学科教授）

国境と国境地域から見るヨーロッパの歴史と記憶

西山 暁義（共立女子大学国際学部教授）

主催：学習院大学史学会〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1 学習院大学文学部史学科研究室内
E-mail: shigakukaitaikai@yahoo.co.jp　HP: https://www-cc.gakushuin.ac.jp/~hist-soc/

研究報告要旨

第一部　11：00 ～ 12：00

16、17世紀のスペインと献策書　　**三瀦みづほ　於　中央-501**

本報告では、16、17世紀のスペイン君主国(Monarquía Hispánica)が抱えた諸問題について方策を示した献策書を題材として取り上げる。献策家には在野の知識人を中心に様々な人々がおり、彼らはあらゆるつてを頼って献策書の宮廷への提出や出版・回覧に漕ぎつけた。献策書が宮廷の会議あるいは宮廷以外の読者とどのようにつながるのかを探り、献策書が政策決定の合議制の中に含まれる様子を明らかにしたい。

中世後期における公家社会の身分変化ー「侍従」の任命を中心にー　　**林哲民　於　中央-502**

摂関家を中心として編成した公家社会の身分制度は、院政期を経て、鎌倉後期まで、おおむね維持されていた。その身分制度の中で、「侍従」の任命は一つのものさしである。「侍従」になれる家系は「清華」に限られた。主に閑院流・花山院流・中御門流・御子左流・村上源氏の子孫である。院政期の頃に、それに加えて、末茂流・南家貞嗣流が追加された。鎌倉後期まで「侍従」の出身は以上の家系に限定されていた。しかしながら、鎌倉後期の後宇多院政期以降、名家（勧修寺流・日野流）の重要性が高まり、例外の事例が現れていた。特に、建武新政以降、日野流の「侍従」が現れ、「侍従」になれる家系が増加。さらに、室町殿・足利義満の時代より、足利将軍家に仕える公家衆が「侍従」に任命される現象が起きていた。本報告は、中世後期の「侍従」に注目し、南北朝期・室町期における公家社会の身分制度を説明する試みである。

第二部　13：00 ～ 14：00

「武者小路実陰への従一位・准大臣宣下をめぐって」　　**林大樹　於　中央-501**

本報告では、元文3年（1738）武者小路実陰が従一位・准大臣とされた人事を取り上げる。天皇外戚や武家伝奏経験者でもない実陰の昇進は、家格の面からいえば極めて異例である。当時の朝廷の意思決定のあり方を明らかにし、どのような背景のもと「大臣」となったのか、分析を試みる。

永禄前期における利根川下流域を中心とした政治情勢について　　**吉田勝弥　於　中央-502**
－近年発見された上杉憲勝書状を手がかりに－

戦国時代(とくに後期)における関東地方の政治史を主な研究フィールドとしています。とりわけ、当該期の政治情勢を理解する鍵である関東足利氏の存在に、学部在学中から関心を抱いてきました(卒業論文では第５代古河公方である足利義氏を取り上げました)。彼らと周辺諸勢力との関係性に関する知見を深めることを目指して、今後も、文献史料を読み直し、地域史的な観点も備えた検討を加えてゆこうと考えています。

第三部　14：00 ～ 15：10

編成権成立史再考　　**青木健史　於　中央-501**

ワシントン海軍軍縮条約問題などで高名な「統帥権」をめぐる問題は、従来明治憲法第11条の統帥権を中心に論じられ、第12条の所謂「編制権」については11条との関連の中で論じられてきた。またその成立についても、従来は欧米憲法との制度史的な比較や、議会開会を見据えた見方が中心となっている。本報告では、そうした「編制権」の問題について、明治憲法成立前夜、つまり明治10年代から20年代にかけての陸海軍の軍拡をめぐる「内閣」と「軍」の予算をめぐる攻防や、陸海が混然一体となっていた参謀本部の動きなど、近年の明らかになりつつある当該期の研究成果を基に、明治前期の陸海軍軍拡が「経験」としてどのように編制権成立に繋がっていったのかを再考する試みである。

参加申込方法

オンラインは本会ＨＰからお申し込みください。右のＱＲコードからもアクセスできます。
申込締切は6月6日(水)です。6月8日(金)に、参加に必要な情報や配布資料のご連絡を差し上げます。